臨地実習

【ねらい】

臨地実習は、知識・技術・態度を統合し、看護の理論と実践を結び付けて看護の基礎的能力を養うことをねらいとする。看護は、「人々が健康でその人らしく生活することを医療の側面から支えることであり、支えるとは対象の主体性を尊重し、意思決定できるように関わることや、その人に必要な援助を提供すること」であり、臨地実習での実践を通して基礎的能力を習得する。

臨地実習は、「生活者」として対象を捉えることを軸として科目を設定し、各実習にコアとなる「生活の概念」を明示した。また、臨地実習の構成は、「４つの力」を段階的に強化できるよう配置した。実習時期に応じて「４つの力」のうちコアとすべき力を各看護学の実習と関連させて明示した。

以上をふまえ、臨地実習を「看護の基礎実習Ⅰ」「看護の基礎実習Ⅱ」「その人らしさを考える看護実習」「地域での暮らしを支える看護実習」「その人らしさを支える看護実習Ⅰ～Ⅳ」「成長発達を支える看護実習」「生命の育みを支える看護実習」「看護の統合実習」の 11 科目 23 単位に設定した。

【目的】

看護の実践を通し、知識・技術・態度を統合し、「人間に対する深い理解」「切れ目のない看護実践」「専門職としての倫理観」「対人関係能力」「多職種との協働」を行うための基礎的能力を養うことを目的とする。

【目標】

1. 対象の価値観や人生観を尊重し、健康でその人らしい生活を支えるための基礎的能力を身につける。
2. 対象の状況を的確に判断し、継続的な視点を持って必要な看護を実践するための基礎的能力を身につける。
3. 対象の尊厳を守り、権利を擁護し、看護専門職として倫理観に基づいた責任ある行動がとれる基礎的能力を身につける。
4. 他者を理解する感性を磨き、対象とかかわり合える人間関係能力を身につける。
5. 施設や地域で切れ目のない看護の実現に向けて、保健・医療・福祉におけるチームの一員として、多職種と協働できる基礎的能力を身につける。
6. よりよい看護の実践をめざし、自ら学び続ける能力を身につける。

【科目構成とねらい】

科　目	ね　ら　い	[４つの力]のコア部分	[生活の概念]のコア部分	看護学領域	単位	時期
看護の基礎実習Ⅰ	看護の対象となる人を取り巻く環境と看護活動を理解し、「感じるとる力」を育み看護について理解を深める。	「感じ取る力」を育む実習	「生きていく」を理解する実習	基礎看護学	1	1年次
看護の基礎実習Ⅱ	健康障害を持つ人の「生きていく」を理解し、日常生活の援助を通して、状態に応じた看護の技術と方法の基礎を習得する。	「感じ取る力」を育む実習	「生きていく」を理解する実習	基礎看護学	3	1年次
その人らしさを考える看護実習	成人・老年期にある人の発達課題と生活上のニーズを理解し、看護過程のプロセスを用いて、援助の実際を学び、その人らしく生活するために必要な看護を考える。	「考え構成する力」を育む実習	「生きていく」を支える実習	成人・老年看護学	2	2年次
地域での暮らしを支える看護実習	看護専門学校が置かれた地域の実情に合わせ、地域包括ケアシステムにおける看護の多様性と継続性を学び、ケアマネジメントや多職種連携を体験する中で「表現する力」を育む。	「表現する力」を育む実習	「生きていく」・「暮らす」を支える実習	地域・在宅看護論	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅰ	成人・老年期にある生命活動が脅かされた状態にある人を理解し、「生きている」「生きていく」を支える看護（周手術期・救急・集中治療下の看護）の実際を学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「生きている」・「生きていく」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅱ	成人・老年期にある健康維持および生活行動の営みが困難となった人が、自立・自律して「生きていく」あるいは「暮らす」を支えるための援助の実際を学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「生きていく」・「暮らす」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅲ	成人・老年期にあるエンドオブライフケアが必要な人とその家族を理解し、「その人らしく生きる」こと考え、それを支えるために必要な看護の実際を学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「その人らしく生きる」を支える実習	成人・老年看護学	2	2～3年次
その人らしさを支える看護実習Ⅳ	精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人、地域において暮らす人との関わりを通し、その人らしい生活を支える看護、社会資源や支援の実際を学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「その人らしく生きる」を支える実習	精神看護学	2	2～3年次
成長発達を支える看護実習	子どもの生活や療育・教育を中心とする場と治療や看護を受けながら生活をする場において、成長発達を支え、その子らしさが発揮でき、健康を保持増進できるような看護実践を学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「生きている」・「生きていく」を支える実習	小児看護学	2	2～3年次
生命の育みを支える看護実習	ハイリスク状態を含む妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の理解と必要な看護について学ぶ。さらに、より健やかな母子関係の成立と生命を育む家族が円滑かつ健やかに生活するための支援について学ぶ。	「表現する力」を育む実習	「生きている」・「生きていく」を支える実習	母性看護学	2	2～3年次
看護の統合実習	既習の知識・技術・態度を統合し、臨床判断を用いてさらなる看護実践力の向上を目指す。さらに、将来の看護師像を確立し、自身の課題を明確にする。	「表現する力」を発揮する実習	「その人らしく生きる」を支える実習	看護の統合と実践	3	3年次

授業計画

<table>
<tr><td>科目名</td><td>看護の基礎実習Ⅰ</td><td>単位数</td><td>１単位</td><td>履修時期</td><td>１年次</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="5">専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">看護の対象となる人の反応に気づき、取り巻く環境と看護活動を知り、看護について理解を深める</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1. 看護の対象となる人を取り巻く環境と生活の場について理解できる。
2. 看護の対象となる人の生活と看護師の関わりの実際について理解できる。
3. 看護の実践を通して対象となる人に対する看護の役割や機能について考察できる。
4. 他者との関係を構築しながら、看護師になるための今後の学習課題を明確にできる。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="5">１年次　９月</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="5">1. 施設の環境と生活の場
2. 看護の対象となる人の生活と看護の実際
3. 看護の役割と機能
4. 看護学生としての課題</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="5">1. 病院等の概要を知り、構造と機能を見学して物理的・人的環境についてまとめる。
2. 事前学習を基に見学して、実際の生活（療養）の場を捉える。
3. コミュニケーションスキルを使って対象者から施設内での生活について日常生活上の問題や思いを聞き取る。
4. 看護師と共に行動（ジョブシャドウ）しながら対象者への看護師の関わりを捉える。
5. 聞き取りやジョブシャドウで捉えた看護のもつ役割や機能についてまとめる。
6. カンファレンスで看護師の関わりを共有し、看護の役割や機能について学びを深める。
7. カンファレンスでの学びを共有し、思考を整理する。
8. 今後の学習における自己の課題と目標、具体策を明確にする。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">・詳細は、実習要項を参照する。</td><td>評価方法</td><td>実習評価表に基づき評価する</td></tr>
</table>

授業計画

<table>
<tr><td>科目名</td><td>看護の基礎実習Ⅱ</td><td>単位数</td><td>3 単位</td><td>履修時期</td><td>1 年次</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="5">専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　　（＊実務経験のある教員）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">健康障害を持つ人を理解し、状態に応じた看護の基本技術を習得する</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1. コミュニケーションスキルやフィジカルイグザムを活用し、対象を理解することができる。
2. 根拠に基づいた援助を実施できる。
3. 実践を通して患者の状態を捉え、より良い援助のために振り返ることができる。
4. 看護師に必要な資質を高める意義が理解できる。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="5">1 年次　2 月</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="5">1. コミュニケーションスキルやフィジカルイグザムを活用した対象の理解
2. 援助の根拠や技術の基本に基づき、患者の状態に応じた援助の計画と実施
3. 援助中の患者の反応を捉えた振り返りと今後の課題・解決策
4. 看護師に必要な資質を高める意義の明確化</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="5">1. 人間関係構築に向けたコミュニケーションスキルを活用する。
2. 疾病の影響から患者の身体状態を判断するフィジカルセスメントをする。
3. 複数の視点で情報収集をし、既習の知識と照らして分析解釈する。
4. 援助の根拠や技術の基本に基づき、患者の状態に応じた援助計画を立案する。
5. 援助計画に基づき日常生活援助を実施する。
6. 援助を通じて患者の反応を捉え、援助について指導者・教員と共に振り返る。
7. 実習を通して看護師に必要な資質とその意義、自己の課題について自分の考えを深める。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">・詳細は、実習要項を参照する。</td><td>評価方法</td><td>実習評価表に基づき評価する</td></tr>
</table>

授業計画

科目名	その人らしさを考える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	成人・老年期にある人への根拠に基づいた日常生活の援助を通して、生活上のニーズの把握と必要な援助の基礎を習得する				
目標	1. その人らしさを理解し、生活上のニーズを把握することができる。 2. 看護上の問題点を明確にし、健康状態に応じた「その人らしさ」を支える看護を考えることができる。 3. その人らしく生活するために必要な看護を看護過程のプロセスを用いて考え、一部実施できる。 4. 振り返りを通して、「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な看護について考えることができる。				
実習期間	2 年次 7 月～　病棟実習　9 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. 対象の「その人らしさ」を捉え、生活上のニーズを把握。 2. その人らしさや生き方・生活に影響を与える因子。 3. 対象に応じたコミュニケーション。 4. 看護の対象にある人の「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な援助。 5. 看護の対象にある人が「その人らしく生活する」ために必要な援助の実際。 6. 振り返りから自己の考えの明確化。				
実習方法	1. 病棟実習９日間 2. 病棟で成人期・老年期にある人を１名受け持ち、看護過程の展開を行う。 日常生活援助の実施を通して、生活上のニーズを理解する。 3. 看護過程のプロセスを用いて、その人らしさの理解とそれに基づいた看護を一部実践する。 4. 個人の特徴を理解し、健康状態に応じたその人らしさを考えることができる。 5.「その人らしく生活する」ことを支えるために必要な看護について自己の考えを明らかにする。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。	評価方法	実習評価表に基づき評価する		

授業計画

科目名	地域での暮らしを支える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2・3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	地域で暮らす人々とその家族、それらを取り巻く環境や支援システムを理解し、人々の意思決定を尊重し暮らしを支える看護を実践できる能力を養う				
目標	1. 地域で暮らす人々と家族の生活環境、生活状況が理解できる。 2. 療養者、家族の健康状態、生活状況に応じた日常生活援助技術、基本的な医療的ケアが実践できる。 3. 療養者の生活を支援するための社会資源活用の実際が理解できる。 4. 保健・医療・福祉職種の連携協働を通して、切れ目のない看護が理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. 在宅で暮らす療養者、家族を対象とした看護：訪問看護ステーション （1）訪問看護ステーションの機能と役割の理解 （2）訪問看護師に求められる姿勢や態度の理解、マナーをわきまえた行動 （3）療養者及び家族の健康状態や生活状況の把握、訪問看護計画立案、実践、評価 （4）療養者と家族を支える関係機関職種と連携、社会資源の理解 2. 地域包括ケアシステムの中核を担う機関での看護：地域包括支援センター （1）センターの設置目的・機能・役割の理解 （2）利用者や家族の自立・自律に向けた生活支援の実際 （3）地域包括ケアシステムと多職種連携・調整の実際 3. 在宅療養を支える地域施設における看護：通所施設 （1）通所施設の機能・役割の理解 （2）通所施設における看護師の役割、支援の実際				
実習方法	1. 訪問看護ステーション （1）実習期間中に 2 回以上訪問できる療養者 1 名を受持ち実習する。 （2）受持ち以外の療養者への訪問にも同行し、看護実践を見学する。 2. 地域包括ケアセンター （1）シャドーイングを行い、事業内容に合わせた活動の実際を学ぶ。 （2）可能であれば同行訪問、地域ケア会議、退院前カンファレンス等に参加する。 3. 通所施設 （1）利用者への援助見学やレクリエーション場面に参加し、支援の実際を学ぶ。 （2）看護師のシャドーイングを行い、支援や連携の実際を学ぶ。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。		評価方法	実習評価表に基づき評価する	

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅰ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	成人・老年期にある生命活動が脅かされた状態にある人を理解し、「生きている」「生きていく」を支えるための援助の基本を習得する。				
目標	1. 生命活動が脅かされた状態にある人を理解できる。 2. 手術療法を受ける人の「生きている」「生きていく」を支えるための援助が一部実践できる。 3. 様々な場での生命活動が脅かされた状態にある人の「生きている」「生きていく」を支えるための継続した援助が理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. 生命活動が脅かされた状態にある人とその家族の理解 2. 周手術期にある人とその家族の理解 3. 救命を必要とする人に対する援助 4. 周手術期の看護 5. 回復を促進するための看護 6. 集中治療下での看護 7. 周手術期・集中治療における多職種連携 8. 退院に向けた看護 9. 外来で治療を継続する人への看護				
実習方法	1. 手術を受ける人を受け持ち、術前の準備、入室時の看護、回復に向けた支援について学習する。周手術期の一連の看護については一部実施する。 2. 受診時から入院、そして退院後の外来通院時の継続看護について学ぶ。 3. 手術室での実習を行い、手術期の看護を学ぶ。 4. 集中治療室等での実習を行い、生命活動が脅かされた状態にある人の看護や多職種連携について学ぶ。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。		評価方法	実習評価表に基づき評価する	

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅱ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	成人・老年期にある健康維持および生活行動の営みが困難となった人が、自立・自律して「生きていく」ことや「暮らす」を支えるための援助の基本を習得する。				
目標	1. 健康維持および日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人を理解できる。 2. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人が自立・自律して生きていくことや暮らしを支えるための援助を実践できる。 3. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人および家族の自立・自律に向けた教育支援ができる。 4. 健康維持回復や生活機能の向上を目指す人が、地域の場で生きていくことや暮らしを支える保健・医療・福祉の連携を理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. 健康維持および日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人とその家族の理解 2. 生き方や生活に影響を与える因子の理解 3. 病態生理や治療、検査及びその影響についての理解 4. 患者および家族が健康課題に向き合い取り組む過程の支援 5. その人らしく過ごせるよう、日常生活の自立・自律や QOL の維持・向上に向けての支援 6. 生きることや暮らしを支える保健・医療・福祉の連携の理解				
実習方法	1. 青年期・壮年期・向老期・老年期のいずれかの発達段階にあり、疾病の慢性的な経過や回復過程にある人を受け持ち、看護過程を基盤に臨地実習を行う。 2. 実習期間中はカンファレンスを通して学習を共有し深める。 3. 臨床実践を通して、健康維持及び日常生活行動が困難になった人や他者および社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人および多様性を学ぶ。 4. 自立・自律して、その人らしく「生きていく」あるいは「暮らす」を支えるための援助を実施する。 5. チーム医療における多職種との連携・協働の実際について、見学やカンファレンスの参加を通して学ぶ。 6. 地域医療連携に携わる専門職または MSW、保健・医療・福祉の連携の実際について学ぶ。 7. 地域で暮らす生命活動と日常生活行動や他者や社会とのつながりをもった生活行動の営みが困難となった人の理解及び健康の維持・増進、疾病の予防に向けての支援について学ぶ。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。			評価方法	実習評価表に基づき評価する

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅲ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	成人・老年期にあるエンドオブライフケアが必要な人とその家族を理解し、「その人らしく生きる」ことを支えるために必要な援助の基本を習得する。				
目標	1. エンドオブライフケアが必要な人のその人らしさを理解し、寄り添うことの重要性が理解できる。 2. その人らしさに配慮した援助を実施できる。 3. その人らしさを支えるために必要な保健・医療・福祉における多職種・他機関連携が理解できる。 4. その人らしさを支えるために必要な看護について考え、看護の役割を理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. エンドオブライフケアが必要な人の把握 2. エンドオブライフケアが必要な人へのその人らしさに配慮した援助 （1）その人らしさに配慮したコミュニケーション （2）エンドオブライフケアが必要な人の苦痛の緩和 （3）エンドオブライフケアが必要な人のその人らしさをふまえた援助 （4）エンドオブライフケアが必要な人のその人らしさを支えるために必要な家族に対する看護 （5）エンドオブライフケアが必要な人の安楽と安寧にむけた援助 3. その人らしく安心した生活を送るための生活を支える保健・医療・福祉における多職種、他機関連携の理解 （1）人を取り巻く家族・ソーシャルサポートシステムの実際 （2）人を取り巻く保健・医療・福祉の連携および看護師の役割 （3）人を取り巻くフォーマルサポート、インフォーマルサポートの必要性の理解 4. その人らしさを支えるために必要な看護について考え、看護の役割を理解				
実習方法	1. 病棟実習で、エンドオブライフケアが必要な人を受け持ち、看護実践を行う ・一般病床、緩和ケア病棟、医療型療養病棟または介護医療院、地域包括ケア病棟認知症専門病棟等 2. 地域と連携している病院内の部署等の見学実習やカンファレンスへの参加等を通して学ぶ。 3.「その人らしく生きる」ことを支えるために必要な看護を考え実践する 4. 看取り、エンゼルケア、グリーフワーク・グリーフケアについてカンファレンス等を行い、エンドオブライフケアが必要な人への看護実践を振り返り、学ぶ。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。		評価方法	実習評価表に基づき評価する	

授業計画

科目名	その人らしさを支える看護実習Ⅳ	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	精神に障害のある人を理解し、その人らしく生きるために必要な看護を習得する。				
目標	1. 精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人を理解できる。 2. 精神に障害があり医療及び保護が必要な人がその人らしく生きるために必要な看護の役割を理解し、必要な看護を実践できる。 3. 精神に障害のある人との関わりを通し、精神に障害のある人との関係性を自己洞察できる。 4. 精神の障害とともにその人らしく暮らしている場で、必要な看護の役割を理解できる。 5. 精神の障害とともにその人らしく暮らす人を支える多職種の役割と連携を理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	＜精神に障害があり医療及び保護が必要な場で生きる人への看護＞　精神科病棟 1. 医療及び保護が必要な人の安全を守るための看護について学ぶ。 （1）精神科病棟の治療的環境　（2）リスクマネジメント （3）行動の制限に対する看護　（4）安全確保対策 2. 精神に障害のある人を尊重し、適切なコミュニケーションをとる。 （1）精神に障害のある人の生きづらさの理解 （2）精神に障害のある人の人権と倫理 （3）精神に障害のある人を尊重したコミュニケーション 3. 患者の健康的側面（強み）に着目した看護を考え実践する。 （1）精神状態と日常生活の観察と評価　（2）看護の実践 4. 精神に障害のある人のサポートシステム、自己決定の支援を理解する。 （1）サポートシステム　（2）自己決定の支援　3)多職種の連携 5. コミュニケーションの場面を振り返り自己洞察する。 ＜精神の障害とともにその人らしく暮らす人への看護＞　地域：事業所 1. 各事業所において、精神に障害のある人との関わりを通して、その人らしく暮らすための支援について理解する。 2. 精神に障害のある人のサポートシステムと課題について理解する。				
実習方法	1. 病院及び地域の事業所で実習する。 2. 精神科病棟での実習については、1 グループ 6 名が 1 つの病棟で実習する場合と、3 名ずつ分かれて 2 つの病棟で実習する場合がある。 3. 地域での実習は、1 グループ 6 名が 2～3 名に分かれて実習を行う。 4. 原則として、精神科病棟での実習を行った後に地域での実習を行う。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。		評価方法	実習評価表に基づき評価する	

授業計画

科目名	成長発達を支える看護実習	単位数	2 単位	履修時期	2～3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	その子らしさを発揮できるよう、成長発達・健康の保持増進を支える看護ができる。				
目標	1. 成長発達段階を踏まえ、その子のもつ力を引き出しながら適切な看護を考え、実践できる。 2. 子どもの生活の場を知り、健康状態を踏まえてその子らしい生活を送れるよう援助が実施できる。 3. 子どもの尊厳と権利を尊重した援助が理解できる。 4. 子どもと家族を取り巻く保健医療福祉・教育との連携を知り、多職種間における看護の役割が理解できる。				
実習期間	2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）				
実習内容	1. 地域で生活する子どもの看護 地域で生活する子どもに対する成長発達への支援や健康維持・増進に向けての看護を学ぶ。 2. 健康を障害された子どもの看護 病気や疾患を持ちながら生活する子どもの持つ力が発揮できるような看護を学ぶ。				
実習方法	1. 病院および地域の保育所等で実習する。 2. 地域で生活する子どもの看護は保育園で２日間で実習する。 3. 保育所では、保育所内の子どもの生活を通して、その子らしい生活支援や成長発達を促す関わり、健康教育などを学習する。 4. 健康を障害された子どもの看護は、病院の小児病棟・小児科病棟を中心に小児外来、障害児施設等を含めて７日間実習する。内訳は、小児病棟・小児科病棟 4 日間、小児外来・障害児施設等３日間とする。 5. 実習まとめは、カンファレンスの意見交換を通して各施設での学びを共有し、多職種間における看護の役割や子どもを尊重した看護のあり方について理解を深める。				
備考	・詳細は、実習要項を参照する。		評価方法	実習評価表に基づき評価する	

授業計画

<table>
<tr><td>科目名</td><td>生命の育みを支える看護実習</td><td>単位数</td><td>2 単位</td><td>履修時期</td><td>2～3 年次</td></tr>
<tr><td>担当教員</td><td colspan="5">専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">生命を育む女性と家族の健康状態に合わせた看護についての基本を学ぶ。</td></tr>
<tr><td>目標</td><td colspan="5">1. 周産期にある対象（妊・産・褥婦・新生児）の変化と、家族を含めた役割適応状況並びにその支援について理解できる。
2. 周産期にある対象への基本的技術を実践できる。
3. 受け持ち対象の健康状態をアセスメントし、必要な支援方法を理解できる。
4. 地域で生活する女性と家族への支援とその実際を学び、その必要性を理解できる。
5. 生命を育む女性と家族に対する支援と看護職の役割について理解を深めることができる。</td></tr>
<tr><td>実習期間</td><td colspan="5">2 年次 11 月～3 年次 10 月のうち、実習配置で指定された 11 日間（ＯＲまとめ含む）</td></tr>
<tr><td>実習内容</td><td colspan="5">1. 医療施設において妊産褥婦・新生児を対象に、家族を含めた支援の実際について学ぶ。
2. 地域実習では、地域で生活する母子の支援を中心に、生命の育みを支える看護の在り様について、多様な側面から学ぶ。
3. 様々な場での学びを共有し、生命を育む女性と家族に対する支援と看護職の役割について理解を深める。</td></tr>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="5">1. 初日はオリエンテーション・実習準備（４時間）
2. 1・2 週目は病院（周産期医療施設）で 7 日間（63 時間）実施する。
3. 3 週目 2 日間（18 時間）は地域で実施する。
4. 最終日は学内まとめ（5 時間）はカンファレンスでの意見交換で学びを共有する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td colspan="3">・詳細は、実習要項を参照する。</td><td>評価方法</td><td>実習評価表に基づき評価する</td></tr>
</table>

授業計画

科目名	看護の統合実習	単位数	3 単位	履修時期	3 年次
担当教員	専任教員＊または非常勤講師＊、実習指導者＊　（＊実務経験のある教員）				
目的	既に修得した看護実践力を基盤に、知識・技術・態度を統合し、臨床判断を用いてさらなる看護実践力の向上に努める。				
目標	1. 看護マネジメントの実際を知り、看護管理、および医療安全管理の重要性について理解する。 2. 保健医療福祉チームの役割を理解し、チーム連携・協働における看護師のメンバーシップおよびリーダーシップの実際を理解する。 3. 複数の患者の受け持ちや多重課題において優先順位や判断根拠を考え、対象に必要な看護をマネジメントし、「その人らしく生きる」を支えるための看護実践ができる。 4. 安全で安楽な療養環境を提供するための看護師の協力・連携について理解する。 5. 実習を通して、看護職の役割や責任、倫理について考え、将来の目指す看護師像に近づけるように、自己の課題を明確にする。				
実習期間	3 年次 10 月第 4 週～11 月第 1 週頃				
実習内容	1. 施設・病棟部署における病院組織と看護管理および医療安全管理 （1）病院の特性、看護部門の組織と職務　（2）看護部の理念、活動方針 （3）医療安全管理者の役割と体制　（4）人材育成と病院の質向上に向けた取り組み 2. 病棟管理者の役割と業務 （1）勤務計画管理　（2）施設管理・物品管理 （3）安全・感染管理（リスクマネジメント）　（4）病床管理と退院調整 （5）看護部及び他部門との連絡調整 （6）職員の教育指導、ワークライフバランス及び健康管理 3. 各勤務時間帯の状況と継続性をもった看護実践の理解および安全で安楽な療養環境を提供するための看護師の協力・連携 （1）タイムスケジュールと時間管理 （2）看護師・看護補助者の業務内容と役割分担および情報の共有 （3）夜間帯における患者の日常生活援助の実際 4. 多職種医療チームにおける各構成員の役割の理解および、チーム連携・協働における看護師のメンバーシップおよびリーダーシップの実際 5. 複数の受け持ち患者への看護実践と夜間帯における看護実践 （1）受け持ち患者の病状の変化や治療方針の変更に応じた看護実践 （2）援助実施の可否と優先順位の判断 （3）安全安楽な看護実践のための時間管理と適時適切な連絡調整 （4）看護実践の評価 6. 看護実践の振り返りと課題の明確化 （1）それぞれの受け持ち患者の状況の把握と突発事態に応じた調整行動 （2）主体的な報告・相談・連絡 （3）看護実践の振り返りと自己の客観的評価と課題				

<table>
<tr><td>実習方法</td><td colspan="3">1. 各看護学実習が全て終了した 3 年次最後の時期に実習する。
2. 施設・病棟部署における病院組織と看護管理、医療安全管理の重要性については、実習病院の看護管理者からガイダンスの時間を計画する。
3. 病棟管理者の役割と業務については、病棟管理者からガイダンスを受けてシャドウイングする。
4. 2 名の患者を受け持ち、優先度を判断しながら看護を実践する。
5. 夜間実習を計画する。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>・詳細は、実習要項を参照する。</td><td>評価方法</td><td>実習評価表に基づき評価する</td></tr>
</table>